立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）
大学院生研究
２０１２年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院　21 世紀社会デザイン研究科　比較組織ネットワーク学専攻		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏　名	
	21 世紀社会デザイン研究科 比較組織ネットワーク学専攻 1 年次	杉原　学　印	
指導教員	所属･職名	氏　名	
	21 世紀社会デザイン研究科	内山　節　印	
自然・人文・社会の別	自然　・　人文　・　社会	**個人・共同の別**	個人　・　共同　名
研究課題名	自殺予防における共同体の縦軸の役割		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏　名	
	21 世紀社会デザイン研究科 比較組織ネットワーク学　1 年次	杉原　学	
研究期間	２０１２年度		
研究経費	200 千円（実績額又は執行額）		

研究の概要（200～300 字で記入、図･グラフ等は使用しないこと。）

日本の年間自殺者数は、1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、自殺率においては先進国中トップクラスである。その大きな要因として「無縁社会」とも呼ばれるコミュニティの喪失がある。しかしこうしたコミュニティの喪失だけでなく、歴史軸と人間との関係の切断が、人間の存在を不安定化させているという問題がその背後にある。よって、修士論文で明らかにした横のつながりの重要性に加え、縦軸のつながり（人と共同体の歴史的・時間的つながり）の必要性と再構築の可能性についても考察し、今後の自殺予防のあり方について検討する。研究の主軸としては、明治以降の近代化によって日本の共同体がいかに解体されていったかを中心に分析していく。

キーワード（研究内容をよく表しているものを３項目以内で記入。）

〔　自殺予防　〕〔　時間　〕〔　共同体　〕

研究成果の概要（図･グラフ等は使用しないこと。）

【自殺の定義の再検討】
自殺予防をテーマとする研究を深めるにあたり、修士論文にて採用したシュナイドマンによる「自殺の定義」を改めて検討した。結果、彼の思想と、筆者が修士論文において導き出した結論との差異が浮かび上がってきた。これを明らかにするために、精神科医であるフランクルの視点を交えながら、「近代社会における自殺とは何か」について再検討した。その成果を論文として執筆し、21 世紀社会デザイン研究学会学会誌へ投稿し、掲載に至った。

【明治以降の時間意識の変遷の調査】
明治以降の日本の人々の時間意識の変遷について、主に文献により調査した。明治以降の日本の歴史は、その地域の営みとともに存在した「帯の時間（関係時間）」から、その地域の営みに対して無関係に存在する「点の時間（時計時間）」へと、急速な移行を果たしていく歴史であったと言えることを明らかにした。この大きな流れの中で、共同体がいかに解体され、人々の時間意識及び精神のあり様がどのように変化していったかを丹念に見てゆくことが今後の課題となる。

【コミュニティにおける縦軸と横軸の関係性の考察】
マッキーヴァーのコミュニティ論を基に、コミュニティの源泉とされる人々の「関心」と、「時間」との関係性について分析した。ここから、コミュニティにおける縦軸と横軸のつながりが相互に関連し合い、時空として共有されるコミュニティを存在させていることが明らかとなった。その成果を論文として執筆し、21 世紀社会デザイン研究科紀要へ投稿し、掲載されるに至った。

【国家政策とコミュニティ解体との関係の分析】
日本におけるコミュニティ解体の背景には、昭和の大合併など、大規模に実施された市町村合併の政策がある。これによって既存のコミュニティが解体され、それまで地域の中で守られてきた伝統や行事、さらには人のつながりが絶たれたことが考えられる。これについて、大阪府千早赤阪村の合併白紙撤回プロセスの事例調査から、合併の動機、住民の対応等について考察した。結果として、自治体の運営が市場経済の中で翻弄され、国からの交付金の減少などの財政的事情からやむなく合併への道を模索しているケースが非常に多いことがわかってきた。そのプロセスの中での様々な経済的合理化政策によって、それまで自律的に営まれてきたコミュニティが解体してゆく可能性が指摘される。

研究成果の概要　つづき

※この（様式２）に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（Ａ４縦型横書き１枚・自由様式）を添付すること。

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

①雑誌論文
杉原学、「コミュニティにおける『関心』と『時間』についての考察」、21世紀社会デザイン研究科紀要『21世紀社会デザイン研究』、vol.11、2013年、pp.97-106

①雑誌論文
杉原学、「『存在することの苦痛』と自殺に関する研究－－シュナイドマンとフランクルの視点から」、社会デザイン学会学会誌『Social Design Review』、Vol.4、2012年、pp.90-100

②図書
杉原白秋(ペンネーム)、アルマット、『考えない論　悩まなければ答えが見つかる！』、2013年、224ページ

④学会発表
杉原学、「共同体における『関心』についての時間的考察」、『第7回21世紀社会デザイン研究学会年次大会』、2012年度